

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 29 年 7 月 13 日 (2017.7.13)

【公開番号】特開 2016-2136 (P2016-2136A)

【公開日】平成 28 年 1 月 12 日 (2016.1.12)

【年通号数】公開・登録公報 2016-002

【出願番号】特願 2014-122722 (P2014-122722)

【国際特許分類】

A 6 3 B 53/06 (2015.01)

【F I】

A 6 3 B 53/06 B

A 6 3 B 53/06 C

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 5 月 31 日 (2017.5.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

本実施形態の場合、交換部材 18 と交換部材 19 とは、全長を除いて同じ構成としている。交換部材 18 の全長は L1 であり、交換部材 19 の全長は L2 であり、両者は L1 > L2 の関係にある。ここで、本実施形態の場合、全長 L1 と全長 L2 との違いは、専らネジ軸 18a とネジ軸 19a の長さの違いによるものであり、頭部 18b と頭部 19b とは同じ形状である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 7】

図 3 (A) において、面 S1 はゴルフクラブヘッド 10 を、その規定ライ角、規定ロフト角で接地面に接地させたときに、フェース部 11 の幾何中心 Fc を通り、接地面と垂直であり、トゥ ヒール方向と垂直な仮想垂直面である。なお、ライ角は図 3 (A) において角度 1 で示されるとおり、ホゼル部 15 に装着されるシャフト軸線 L11 と、接地面とがなす角度である。ロフト角は図 3 (B) において角度 2 で示されるとおり、フェース部 11 と、接地面に垂直な面とがなす角度である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

ゴルフクラブヘッド 10\_0 は、単一部品で構成してもよいし、複数のパーツを接合して組み立てることができる。複数のパーツを接合する場合、例えば、本体部材とフェース部材とから構成できる。本体部材はフェース部 101 以外の部分を構成し、フェース部材は本体部材に接合されてフェース部 101 を形成する。